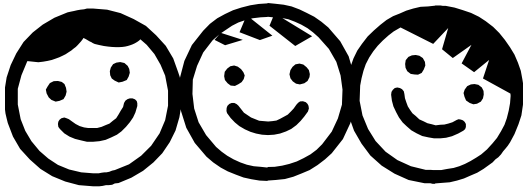


5月16日 笑顔でいるということ

運動会まであと2週間となりました。けがをすることなく、みんなが力いっぱい演技できるように準備を進めていきましょう。疲れたら体を休めることも大切です。早寝・早起き・朝ごはんの生活リズムにも注意をしていきましょう。注意をすればけがは防ぐことができます。生活の仕方にも注意をしてみてください。



さて、今朝は「笑顔」についてのお話をします。皆さんは一日の中でどのくらいの時間を笑顔で過ごすことができますか。先生は、皆さんと朝あいさつをするときに感じていることは、笑顔であいさつをされるととても気持ちよく一日を始めることができるなということ

ことです。声の大きさもいい印象を与えますが、それに加えてにこにことした笑顔がついてくるともっと気持ちが伝わってきます。ですから、先生も笑顔で皆さんと接していこうと思っています。

でも、笑顔でいるには、自分の心が「優しさ」や「安心」でつつまれていることが大切です。友達や家族とけんかをしているとき、心配ごとや悩み事があるとき、悲しいことがあるときには笑顔にはなかなかないものです。こういうときにつくる笑顔は「作り笑い」といって心から出された笑顔ではなく、どこかで無理をしながら作っている笑顔です。最近はデジタルカメラの機能も充実してきて、人の笑顔を見つけ出して、シャッターが自動的に切られるような機能もついたカメラがあります。特殊なセンサーで人間の顔の表情を読み取って、写真写りのいい表情を逃さないようにした機能です。しかし、残念ながらこのような高度な技術を使っても、作り笑いと心からの笑顔までは十分に見分けがつかないそうです。

では、私たち人間はどうでしょうか。ほんの少しの表情の違いを見分けることができるのではないかと思います。相手が本当の笑顔で接してきているかどうかは何となくの印象で分かってしまうのではないのでしょうか。そこには人間の感情＝心の様子が映ってしまうからではないかと考えられます。地球上に数多くある生物の中でも笑顔が表現できるのは、人間やそれに近いサル仲間だけだと言われています。私たち人間に与えられた笑顔をはじめとする表情は人と人を結ぶ大切なはたらきです。ぜひ、皆さんも相手にいい印象を与えるような笑顔を手掛けてみてください。きっと口から出てくる言葉も変わってくることと思います。

一方で、止めてほしい笑顔もあります。それは難しい言葉でいうと「嘲笑」といいます。「人をばかにする笑いです。」例えば、友達が失敗をしたときにばかにするような笑いは止め、優しく励ます笑顔に変えてもらいたいと思います。

いずれにしても笑顔は私たちの心をつなぐ大切な役割を果たしているということを忘れずにいてください。皆さんが全員笑顔で学校生活を送れるように仕事をするのが校長先生の目標です。では、今日一日が笑顔で過ごせるよう期待しています。